

馬産地ライター村本浩平の 2017 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol. 2 | 6.27 [火] ▶ 7.20 [木] 開催分



6.28
[水]

スズカコースウェイ賞

スズカコースウェイは父Giant's Causeway、母フレンチリヴィエラ(母の父フレンチデピュティ)の13歳馬。繋養先は新ひだか・アロースタッドとなります。名馬Giant's Causewayの持ち込み馬という血統背景からも期待が高かったスズカコースウェイですが、1番人気に支持されたニュージーランドIは4着に敗れるなど、勝ちきれないレースが続いていきます。しかし、5歳時の朱雀Sを勝利してオープン入りを果たすと、続く京王杯スプリングCを優勝。これは父の産駒では国内初のJRA重賞制覇ともなりました。現役引退後はその血統背景を評価される形で種牡馬入り。初年度産駒は昨年デビューし、その中からホッカイドウ競馬でデビューしたバンドオンザランが、栄冠賞とイノセントCを勝利する活躍。他の産駒たちも続々と勝ち上がるなど、その評価は日に日に高まっています。

6.29
[木]

リオンディーズ賞

【栄冠賞 [H2]】

新種牡馬

リオンディーズは父キングカメハメハ、母シーザリオ(母の父スペシャルウィーク)の4歳馬。繋養先は日高・ブリーダーズスタリオンステーションとなります。母は日米オークス馬のシーザリオ、そして半兄エピファネイアはジャパンCと菊花賞に優勝。その血統背景だけでなく、調教でも大物感あふれる動きを見せていたリオンディーズは、1番人気に支持されたメイクデビュー京都を優勝。2戦目にはG I 朝日杯FSへ出走し、最後方から前を行く15頭をすべて差し切る衝撃のレースで、2歳チャンピオンに輝きます。クラシック制覇が期待された3歳時は勝ち鞍こそ上げられませんでした。血統背景だけでなく、朝日杯FSで示した能力と、種牡馬としての成功を疑いようがありません。初年度産駒は2019年にデビューを迎えます。

7.6
[木]

アドマイヤムーン賞

【星雲賞 [H3]】

アドマイヤムーンは父エンドスウィープ、母マイケイティーズ(母の父サンデーサイレンス)の14歳馬。繋養先は日高のダーレー・ジャパンスタリオンコンプレックスとなります。2歳時から活躍を見せていたアドマイヤムーンですが、初めてG I レースを勝利したのは、日本から遠く離れたドバイデュティフリーでのこと。帰国後は宝塚記念、ジャパンCも勝利する活躍で、見事にその年のJRA年度代表馬に輝きます。自身は芝の中距離で活躍しましたが、産駒はそのスピード能力が凝縮されたように、芝の短距離戦線で優れた競走成績を残しています。今年の高松宮記念ではセイウンコウセイが産駒初となるG I 制覇。芝のスプリント重賞を沸かせたハクサンムーンも、今シーズンから種牡馬入りを果たすなど、父系のさらなる発展が期待されています。

7.11
[火]

フリオーソ賞

フリオーソは父ブライアンズタイム、母ファーザ(母の父Mr. Prospector)の13歳馬。繋養先は日高のダーレー・ジャパンスタリオンコンプレックスとなります。2歳時、3歳時、4歳時、そして6歳時と7歳時にG I レースを勝利し、NARグランプリ年度代表馬に4度輝くなど、近年の地方競馬におけるスターホースとして活躍したフリオーソ。2013年から種牡馬入りを果たし、初年度産駒は2016年にデビュー。産駒たちは自身を彷彿とさせるかのように、ダートで次々と勝ち上がりを見せています。とくに地方競馬では43頭の産駒が47勝をあげ、昨年はNARにおけるファーストシーズンサイアーの首位にも輝きます。ホッカイドウ競馬でデビューしたバリスコアは今年の北斗盃(H3)で3着に入るなど、牡馬クラシック戦線でも活躍。地方競馬におけるリーディングサイアーも視野に入ってきました。

7.20
[木]

キングズベスト賞

【ノースクイーンカップ [H2]】

キングズベストは父Kingmambo、母Allegretta(母の父Lombard)の20歳馬。繋養先は日高のダーレー・ジャパンスタリオンコンプレックスとなります。現役時はGiant's Causewayを退けて英2000ギニーを優勝するなど、競走馬としても評価の高いキングズベストですが、やはり特筆すべきは種牡馬となってからの産駒実績。2010年にはエイシンフラッシュが日本ダービーを、Workforceが英ダービーを優勝。同じ年に産まれたSajjhaaは2013年のドバイデュティフリーを制するなど、キングズベスト産駒の当たり年となりました。日本での初年度産駒は2016年にデビューし、次々と勝ち馬が誕生していますが、これまでの産駒実績からしても成長力にも秀でているのは明らかで、今後も続々と勝ち上がりの知らせが聞こえてきそうです。

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

